

O022-P22

会場:コンベンションホール

時間:5月23日 16:15-18:45

海と陸の会会う場所 -室戸ジオパークの科学ストーリー- Where the ocean and the land meet land -Scientific story of Muroto Geopark-

柴田 伊廣^{1*}

Tadahiro Shibata^{1*}

¹ 室戸ジオパーク推進協議会

¹ Muroto Geopark Committee

室戸岬には、プレートの運動に伴う激しい変動が記録されている。日本列島は、沈み込み型の収束境界（沈み込み帯）に位置している。沈み込み帯の多くは、海のプレートが陸のプレートの下に潜り込みマントルに突入する場所である。この海のプレートと陸のプレートのひしめき合うエネルギーは、地震や火成活動、地殻隆起変動（造山運動）といった運動で消費される。室戸ジオパークは、まさにこのようなプレート運動による地球上の激しい変動が凝縮している地域であると言える。

室戸ジオパークのジオサイトは、付加体の形成、海底火成活動、地形の形成の三つの地質学的なステージと、将来必ず起こる巨大地震、そして空と海からの災害と恵みによって説明される。これらはプレート運動のような数百万年という長い時間をかけて起こる出来事から、地震のように十数秒で起こる出来事まで、様々な時間スケールの特徴ある地球科学的な事件に強く関連している。

現在でも、地球科学の最先端は室戸の「陸にある過去」と「海にある現在」を重要視している。特に沈み込み帯を対象にして、地震や津波のメカニズムを物質科学的に解明しようとする研究は、世界中で最も活発な分野の一つであり、室戸の地質と海底に存在する南海トラフはその研究対象である。これらの成果は、将来の地震・津波被害を最小限にするための基礎情報となることが期待されている。

地球科学的・地質学的プロセスは、人々の時間スケールとかけ離れており、生活との関わりを実感することは難しい。しかし、人々の生活は確実にその影響を受け、またそこから恩恵を得て、さらには自然災害という危機にもさらされている。室戸ジオパークのジオサイトは、地球が活動的であることを理解できる極めて貴重で有効な地質遺産を保持している。

海と陸が会会う場所では過去に何が起こり、将来何が起こるのだろうか。人類はそうやってできる自然とどのように付き合い、どのように恵みを受けていくのだろうか。それらを解く鍵が室戸ジオパークとその沖の海底下に眠っている。

謝辞：資料提供と議論をしていただいた吉倉紳一教授、岡村眞教授、酒井孝治教授、橋本善孝准教授、坂口有人研究員、脇田浩二研究員に感謝する。また、室戸ジオパーク推進協議会会員や室戸市民の方々からの情報提供および議論に感謝する。

キーワード: 室戸, ジオパーク, 科学ストーリー

Keywords: Muroto, Geopark, Scientific story